

# みんなの広場

## Tokorozawa ものしり ウォーキング 峰の坂とおしゃぶきさま

元町交差点から新所沢方面へ向かうと「峰の坂」があります。峰の坂は、かつて坂の傾斜がきつく坂の上が峰のように見えたためにこの名が付いたといわれています。江戸時代の文化・文政年間に編さんされた『新編武蔵風土記稿』にも「峯坂」の地名がみえ、当時からそう呼ばれていました。昭和7年に行なわれた道路改修工事によって、現在のように緩やかな傾斜になりました。

昭和初期の深刻な国内不況時代、失業者の救済対策として各地で道路や河川の改修等の土木工事が実施されてきました。峰の坂の改修工事もその一つでした。このとき所沢町内では同時に東川の河川改修と金山町通りの拡幅工事が行われました。

東川の河川改修は、当時新光寺付近で北側をう回する流れであったのを真っ直ぐに変更する工事でした。金山通りは、改修前は向かいの家の中が見えるくらい道幅が狭かったといえます。一連の工事を救済事業と呼んでいましたが、市内にはほかにも当時の名残をみることができます。北野では北野天神前交差点から狭山湖へ向う道が整備され、最近まで地元の人びとから「救済道路」と呼ばれてきました。

峰の坂の途中には「おしゃぶきさま」と呼ばれる石像があります。石像は自然石を削ったようで、首がなく磨耗して造られた年代もはっきりしません。「おしゃぶき」は「咳(しかぶく)」からきたもので、首がないのは咳がでないことに通じるからだと言いつたといわれています。百日咳に靈験があり昔は近隣からずいぶんお参りに来たと言われていました。石像は道路から階段で上りつめた祠に祀られていますが、その階段も改修前までは今より短く道路面も高かったそうです。少し前までは子どもが喘息や風邪にかかってもお参りにきたといいますが、今ではそうした人もほとんど見かけなくなりました。

峰の坂付近は、江戸時代には河原宿といわれ、鎌倉・室町時代にはここに人家が集中していました。こうしてみると峰の坂もずいぶん様変わりをしたことになります。



おしゃぶきさま



峰の坂



▲大勢の子どもたちが、猛暑の中、がんばってお神輿を担いでいました。「有楽町の天王祭」。

7月20日(祝)・21日(日)/八雲神社(有楽町)



▲楽しい人形劇とバントマイムで盛り上がった「第21回ところざわ人形劇フェスティバル」。

7月13日(土)・14日(日)/吾妻公民館



▲始まりました「市民プール」。今年は9月1日(日)までやってますので、ぜひご来場ください。

7月13日(土)～9月1日(日)/北野公園市民プール

## 街かどズームイン ZOOM IN

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「昆虫」▶子ども時代の夏休み、森に行つてよく昆虫採集しましたよね▶クワガタムシやカブトムシ、カミキリムシ▶しかし、奇妙な形のものや気持ち悪い昆虫もいます▶皆さんの昆虫に対する思い出や、体験談をお寄せください▶締め切りは8月16日(金)必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先: 〒359-8501 並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

### 消えた海

私の生まれ育った横須賀は、海と山の街です。小学校高学年の時、夏休み前の体育の時間は海へ泳ぎに行きました。この日の午後授業は休みです。ビーチサンダルを履き、膨らませた浮き輪を肩にかけ、電車で3駅ほどの海水浴場です。海の家で着替を済ませ、それぞれビーチサンダルを履き、それぞれ大かき平泳ぎ程度のものですが夏休み前のイベントでした。最終日には、海の中にトマトを浮かべ競争で取りにいったりもしていました。

今では、その馬場海岸は埋め立てられ、住宅地に変わりなくなっています。昭和30年代、駅から見えた富士山と白い入道雲、お釜で沸かした熱い麦茶、ちゅっぴりしゅっぴりかいたトマト、海はなくなっていました。私の中では、今でも楽しい思い出として生きています。



▲家族みんなで四苦八苦の末、澄んだ音色が鳴りました。「かっこうオルガンをつくってみよう」。

7月20日(祝)/ミュージズ・リハーサル室

### 初めての海水浴

私は、20代になるまで海へ行ったことがありませんでした。そんな私が、初めての海水浴をしたのは数年前の秋のことでした。行った場所は、東京のお台場海浜公園です。父親(母も)と、自転車で片道5時間以上かけて、あこがれの海に到着しました。当日は快晴で、辺り一面光り輝くマリリンブルー。その景色は、サイクリングで疲弊してしまったり肉体和精神を瞬間にリフレッシュされてきました。また、初めて海水に触れたときは、感無量でした。20代で海を初体験。生涯忘れられない思い出、と聞きなさい「と」なりました。

### また行きたいな

宮本町・山藤 将  
一番の海の思い出は、佐渡島に行った時のこと。当時、私は小学5年生。岩場に佇んでみると泳いでいる、素潜りか上ったと親せきにおたかられて、調子に乗って貝などをいっぱい取った。それを、宿に持っていき料理してもらった。取れたものを食べた。子どもながらに最高の思い出だ。また、行ってみたい佐渡島。

### 永遠のロマン

若狭・大澤 美江  
夏の夕陽の光を無防備の肌に見てながら、私は江ノ島の海を見ていた。あのちががれてよまなかった海

「おしゃぶきさま」  
所沢リポート  
8月16日(日)午後5時30分、40分(午後10時15分～25分放映)  
9月15日(土)午後1時55分～2時(午後9時5分～10時放映)

■シニアケーブルネット  
広報・JTB  
テレビ情報館

●読めます  
▽飾り戸棚▽B型ベビーカー▽B型ハイカー▽チェロ▽キーボード▽水槽▽乗用車用カバー▽手押し車▽冷蔵庫(2ドア)●求めます  
▽高枝切りバサミ▽噴霧器▽小型耕運機▽ヒョウカスラ▽プレヤー▽ベビーベッド▽ベビースタケット▽ジャンプルジム(滑り台付き)▽原付バイク▽録音機▽折りたたみ式布団●受付方法  
8月16日(日)から電話による先着順で紹介いたします。ただし、利用者は所沢市民に限ります。

休館日 月曜日、祝休日  
申し込み 問い合わせ リサイクルふれあい館  
館 ☎ 94-0000 (08)

## リサイクルふれあい館 不用品ガイド



私は、商船高校出てから昭和40年代前半の約年間ほど、外国航路の貨物船やタンカーの乗組員として、世界各地の海を港を見てきました。船に乗って太平洋や大西洋を2日間も航海して、いよいよ、本日に海つて広い海を自分の目で見て実感しました。また、台風が通過すると、荒波が5万トン級の船でも木の葉の葉のよう

東所沢・若槻 ひでみ  
御宿・土肥と小さな島は海を背に砂遊びをして遊ぶ場所がない。もちろん泳ぎも苦手。でも、かきバタ足で120メートルの記録のまま夏を楽しめない大人になってしまっています。

東所沢・伊藤 みゆ  
娘から聞いた話です。孫が3歳の時、娘の夫が社内の海なし島の埼玉から静岡県焼津市に転勤になり、社から海の見える生活になった。子どもを連れて海辺の小道を散歩するとき、自然と「海は広いな大きなな…」と口ずかっていた。娘たち家族は、この機会を十分に利用して、孫に海辺の砂遊び、磯での小魚取り、海水浴など、海の生活を十分味わせたのだ。そんな生活を一年ちょっとで終わらせた。今後は船橋市に移るという。また、今度はお台場海浜公園です。

### 夏の海は最高

北野・小谷 末代  
家の前が海に面している家で育った私。とらけ夏海は最高です。小学生のころは、近所の遊び仲間といっしょに海へ入りました。足を動かしながらハマグリを取ったり、流れてきた藻を取るとそこに稚魚がいっぱいいた。遠く地平線まで見えて、入道雲や小さく船が見えます。

## はっぴーとこ 野老っ子



ちかこ 佐々木時子さん (上安松在住)

## 女子ラグビー日本代表・背番号6

今回は、5月に開催された第4回女子ラグビーワールドカップに日本代表として参加した佐々木時子さんを紹介します。佐々木さんは東村山市で生まれ、高校3年のときに所沢に引っ越してきました。小学校から短期大学を卒業するまでは、ずっとバレーボールをやっていたが、25歳の時、女子ラグビーチームの募集記事を見たのがきっかけでラグビーの世界に入りました。「練習を見に行ったらそのまま入部してしまいました。でも、バレーボールをやっていたせいで、そんなに違和感なく始められました」という活動的な佐々木さんが所属しているのは、高校生から40歳代までの方が集まる世田谷レディーズというクラブチームです。女子ラグビーは、今のところあまり知られていないため、練習を受け入れてもらえるところが少ないので、ふだんは自分たちで公共のグラウンドを借りて練習しています。また、練習日以外は、航空記念公園にボールを持って走りに行っているそうです。ワールドカップは5月12日から24日まで、スペインのバルセロナで行なわれました。参加16か国で、日本はスペイン・イタリア・オランダ・アイルランドと同じグループで試合を行い、オランダに勝って1勝3敗という結果に終わりました。今大会、佐々木さんはオランダ戦のときに2トライをあげ、日本代表監督からご褒美をいただいたそうです。しかし、今回の代表選手選考前にはけがをしてしまい、一時は「代表にないかも」と心配したこともありました。今後の抱負については「これから日本でも女子ラグビーがもっと普及し、日本が世界の強豪国に肩を並べられるくらい強くなること」と語っていただきました。最後に、佐々木さんから市民の皆さんに向けて一言、「4年後の女子ラグビーワールドカップに向けて、皆さんもラグビーを始めてみませんか。」



世田谷ラグビー場での試合風景